

教職実践演習 参観報告（11月18日）および一日教育実習参観報告（附属小学校）

石黒純一

○5/15 回目の指導について参観した。

【内容】担任が扱う文書について、通知表、学籍簿、会計書類、学級通信作成の留意事項についての説明がなされた。また演習として学級通信の作成を行った。

【感想】最重要文書である学籍簿の作成については別の機会に指導があったと思われるが、書類の重要性の順序を踏まえた説明があれば、なおよいのではと感じた。

書類作成に当たっては、日常の児童生徒の詳細な観察記録がいざという時に役立つとの説明に深く同意する。観察記録の方法については教育実習の際に指導を受けていると思われるが、同記録の教員間での共有も必要であろう。演習部分についてはグループワークと報告であったが、実物投影等により作業結果を違いに見合うことが必要と感じた。

○6/15 回目の指導（太田徹氏および鈴木幸子氏による）について参観した。

【内容】保護者との上手な付き合い方について、太田氏の講話では授業参観、学級懇談、家庭訪問への心構えが詳しく説明され、鈴木氏によるその後のロールプレイでは保護者からのクレームへの対応について学んだ。

【感想】対保護者スキルは現場で体験から学ぶものであり、それには経験知をもつ先輩教員の助言が有用であること、クレームに対しては学校側がチームで対応することが肝要であることを感じた。

○一日教育実習の参観（附属小学校）

国語の読解の授業におけるグループ討議において、とあるグループで白熱した討論がなされていた。結果的に遠隔で見ていた教育実習生に子ども達からヘルプ要請があり、実習生は両者の言い分を聞いて的確に助言をしていた。一方の子ども達は助言を理解したが、他方の子どもはそれにも納得しなかった。その後の展開を期待したが時間切れとなり担任が討論を引き取る形となった。附属での普段のリラックスした授業故に生じた展開が興味深かったが、実習生にはよい体験になったと感じた。